

第28回春季南総少年野球大会・読売新聞杯争奪戦 高学年の部・大会競技規則及び大会特別規則

《大会競技規則》

1. この大会は「2015年度公認野球規則」全日本軟式野球連盟「競技者必携書」及び「大会特別規則」を適用する。
2. 大会使用球は「トップボールC号球」とし、バットは「JSBB」マーク入りの物に限る。
3. ヘルメットは「JSBB」マーク入りを最低8個用意し、打者・次打者・走者・ランナーコーチ・ボールボーイが着用する事。
4. 捕手はプロテクター・レガース・マスク・スロートガード・ヘルメットを試合中は勿論の事、投手の投球練習を受ける時も必ず着用する事。控え捕手についても同様とする。
5. 打者のバッティンググラブ及びリストバンドの着用は認めるが守備側の捕手・野手の投げ手へのバッティンググラブの着用及び投手のバッティンググラブ、リストバンドの着用は認めない。

《大会特別規則》

1. ベンチは若番が一塁側とし、先攻・後攻はメンバー表交換時に主将同士のジャンケンにて決定する。
2. シートノックは5分間とする。但し、ゲームの進行状態によっては行わない。ベンチ入りの人員は代表・監督・コーチ2名・スコアラーの成人5名と登録選手とする。（私服のベンチ入りは代表・スコアラー）また、1名以上の千葉県少年野球連盟有資格指導者又はスポーツ少年団有資格指導者のベンチ入りを義務付ける。
3. 試合は、7回戦トーナメントとしタイムゲームを採用する。タイムゲームは、いかなる場合も1時間30分を超えて新しいイニングに入らず、その回迄の得点をもって勝敗を決する。同点の場合は直ちに特別ルールを行う。
4. 特別ルールは継続打順で無死満塁の状態にして1イニング行い得点の多いチームを勝ちとする。1イニングで決着のつかない場合は継続打順で同様に決着のつくまで行う。

5. コールドゲームは、暗黒、降雨の場合は5回均等回とし、得点差の場合は、4回以降10点差5回以降7点差とする。
6. 4回均等回以前に暗黒、降雨等により試合続行不可能の場合は、一時停止試合とし後日の第一試合の前に継続試合を行う。
7. 試合のスピード化を図る為、選手の負傷などにより治療が長引く場合は、主審は相手チームの監督の了解を得て、試合に出ている9人の中から臨時代走を当該選手から最も遠い打順の選手(投手・捕手を除く)に限って認めて試合を進行させる。
8. 抗議権の有る者は監督又は当該プレイヤーのみとする。プレイヤーの抗議が長引きそうな時は審判員が監督を招致して試合の進行を促す。
9. 投手は 1 試合5イニングス以内かつ1日10イニングス以内の投球を義務付ける。各チームは2名以上の投手を育成し、指導者に選手の健康管理を委ねる。
10. 背番号は、監督30番、コーチ29番、28番、主将10番とし、他の選手は原則として0番から27番以内とする。またユニフォームは全員同一のものが望ましい。
11. 指導者は、シートノック以外のグラウンド内での選手との練習相手等をする事を認めるが、ユニフォームの着用をしない指導者は認めない。
12. 大会使用球場がファウルラインからスタンド、バックネット(又は柵まで)が少年野球区画基準の12mに満たない球場で、送球がスタンド又はベンチに入った場合、競技場のフェンスを超えるかぐるか、抜けた場合、バックストップの上部の継ぎ目から、上方に斜めに張ってある金網に上がった場合、観衆を保護している金網に挟まって止まった場合、特別に設けられたボールデッドゾーンに入った場合、以上の5つの場合は全てボールデッドとし、その送球が打球処理直後の内野手の最初のプレイに基づく悪送球であった場合は投手の投球当時の各走者の位置、その他の場合は悪送球が野手の手を離れた時の各走者(打者走者を含む)の位置を基準として一個の塁しか与えないものとする。